



火の柱

Friends of Jesus 2024年9月第740号

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②貧しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を貴ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群れです。(結成1921年10月5日)

テーマ「主に望みをおく人」(イザヤ40-31) 1P「主の道は永遠に変わらない」長谷川勝義 2p3p「第99回夏期聖修会報告」東海林昭雄 4p「夏期聖修会を振り返って」岩城輝雄、「社会改造を展開した賀川豊彦」大野剛「会計報告」小野島正彰



第99回 主題「主の道は永遠に変わらない」

2024年7月22日(月)

第99回イエスの友会夏期聖修会

閉会礼拝奨励

副会長 長谷川勝義

聖書ハバク
ク書3章5
節6節、1
8節19節

第99回
イエスの友
会夏期聖修
会は全日程
を無事終え
ようとして
います。こ
の歴史のあ
る金沢の地
で、尊い先
人たちのキ
リストにあ
る働きにつ

いて学ぶ事が出来ました。私たちの神様は昔も今も働いていることがわかりました。「主の道は永遠に変わらない」ということが、再確認できた聖修会でした。高山右近は自分の領地、領民を失っても、自分の信仰を守り続けました。前田利家・利長親子の庇護を受け、金沢・能登の地で26年間の間、キリストの道を伝えたのです。しかし、徳川幕府による徹底的な禁教令によって、最後まで信仰を保っていた高山右近をはじめ、主だったものは、国外追放となり、キリスト教は完全に途絶えていったのです。しかし、主の道は滅びません。高山右近は、マニラで亡くなりましたが、何人かの

主の道は永遠に変わらない

人々は、ひそかに、日本に戻っていました。右近の妻ジュスタ・娘ルチア、孫なども能登や大分などの親戚の家にかくまわれました。阿波の出身でディエゴ結城了雪という神学生がいました。彼も追放されてマニラにいましたが、そこで、さらに学んで司祭に任命されました。その彼も、ひそかに日本に戻り、迫害の中にあるキリスト教徒たちを励ました。彼は、厳しい目を逃れながらも、日本各地のキリスト教徒を励まし続けました。この金沢の地にも、佐渡や津軽の地までも、行き、人々を勇気づけたのです。彼こそ、日本人の最後の司祭でした。しかし、その彼も最後は、故郷阿波の国で密告され捕まり、穴釣りの刑で1636年62歳の尊い生涯を終えたそうです。日本に帰れば、死が待ち受けているのにもかかわらず、戻り、仲間の人々を勇気づけた生涯だったのです。彼もまた、どんなに困難に会おうとも「主の道は永遠に変わらない」ことを信じていたのです。さて、今日選んだ聖句の箇所はハバクク書です。この一章を読んでいた時に今の時代にも全く同じように当てはまることと書いてあるなと思いました。1章の2節から預言者の嘆きが書いてあります。「主よ、わたしが助けを求めて叫んでいるのに、いつまであなたに聞いて下さらないのか。わたしが、あなたに、「不法」と訴えているのにあなたは助けて下さらない。どうして、あなたはわたしの災いを見させ、労苦に目を留めさせられるのか。暴虐と不法が私の前にあって、争いが起こり、いさかいが持ち上がっている。律法は無力となり、正義はいつまでも示されない。神に逆らう者が正しい人を取り囲む。たとえ、正義が示されようとも曲げられてしまう。「このように現在も同じです。不法とわかるのに、それがはびこり、暴虐が公然と行われているではありませんか。正義はどこにあるのかと思います。」

さらに、6節を見てください。「見よ、わたしはカルデア人を起こす。それは冷酷で剽悍な国民。地上の広い領域に軍を進め、自分のものでもない領土を占領する。彼らは恐ろしく、すさまじい。彼らから、裁きと支配が出る。」「このように自分の領土でないと力を武力によって奪うという国が現在にもあるではありませんか。弱い国の人々は、領土を奪われ、他国に避難し、追いやられていく。日々、奪われているではありませんか。さらに続きます。「彼らの馬は豹よりも速く、夕暮れの狼よりも早く、その騎兵は飛び跳ねる。騎兵は遠くから来て、獲物に襲い掛かる鷹のように飛ぶ。彼らは来て、皆、暴虐を行う。」「今の時代は、こんなものではありません。馬や弓矢や槍ではありません。ミサイルや無人機や核の時代です。敵を正確にとらえ、一度に多くの者を殺し、目標物を破壊するのです。剽悍なカルデア人どこではありませんか。正義が無視されているのでしょうか。また、不法がはびこつてもいいのでしょうか。しかし、11節には「しかし、彼らは罪に定められる。自分の力を神としたからだ」とあります。しかし、神様は決してこうした不法を許されません。やがて罰せられるのです。私たちはそれを信じています。悪はやがて滅びるのです。さらに、3章の5節に行きます。「疫病は御前に行き、熱病は御足に従う。主は立つて大地を測り、見渡し、国々を駆り立てる。とこしえの山々は砕かれ、永遠の丘は沈む」とあります。現在にもコロナウィルスが猛威を振るい何百万人もの命を奪い、今もまだかかる人は多いのです。地震があり、山火事があり、暴風の被害、大雨の被害もあります。神が我々人間を見捨てたのかと思われることが起こるのです。なぜ、どうして思うのが弱い我々人間です。な

ぜ、暴虐があり、正義は無視され、不法がはびこるのでしょう。

しかし、聖書は答えます。そういう不法・暴虐・あらゆる災害があっても、信仰者は神にあってしつかり立つことができますと言っています。「しかし、主の道は永遠に変わりません」というのです。

「主の道」とは、どういう道でしょうか。ミカ書の次の言葉がよく主の道を現わしていると思います。ミカ書6章8節

「人よ、何が善であり、主が何を前に求めているかは、お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。」と。これこそが主の道、私たちの歩む道ではありませんか。明らかな道です。暴虐を許してはなりません。無力な人々を苦しめてはならないのです。自分の利益だけを求めてはならないのです。自らを誇らず、へりくだって神と共に歩むことこそが、主の道です。そして、ハバク書3章の17節から19節の「イ

チジクの木に花は咲かず、ブドウの枝は実を付けず、オリーブは収穫の期待を裏切り、田畑は食物を生ぜず、羊はおりから断たれ、牛舎には牛がいなくなる。」のようになんでも、私たちは慌てることがありません。なお、神様が守って下さることを信じますから、「しかし、わたしは主によって喜び、わが救いの神の故に踊る。私の主なる神はわが力。わたしの足を雌鹿のようにし、聖なる高台を歩ませる」のです。

イエスキリストを信じるキリスト者の群れは強いのです。いかなる困難が襲おうとも、あわてる必要はありません。神がわが力となつてくださいます。雌鹿のように飛び跳ねることが出来るのです。心は、喜ぶことが出来るのです。私たちイエスの友会の仲間、これからいっそう前進して主の御用の為に尽くしたいと思ひます。

第99回夏期聖修会報告

書記 東海林昭雄

7月22日(月)～24日(水)の日程で、石川県青少年総合研修センターに会場に夏期聖修会が開催された。主題は

鈴木武仁会長



山縣實さん

第99回イエスの友会 主題「純潔なる生活を

2024年7月22日(月)～24日(水) 石川県



すべき
たのな
あなたが
それ、あ
い。こ
げなさ
にえと
る生け
るいけ
にえと
して献
すべき



「純潔なることを貴ぶこと」聖句はローマの信徒への手紙12章1節の「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖な

す」とし、開会礼拝において、小野島正彰さんの司会、奏楽が、長谷川勝義さん、わたし東海林が「新しい生き方」と題して奨励させていただいた。案じていた鈴木武仁会長も奇跡的に健康を回復され、歓迎の挨拶をされた。公開講演は『高山右近に息吹かれ』と題して山縣實さん(殉愛キリスト教会牧師)が熱のこもった講演をしてくださった。なんと高山右近に関する歌を6万曲ほど作詞作曲されたとのことであり、右近が当地にきた経緯と、マニラに流浪されつつも現地の人々に大歓迎された次第を話された。逆境の中でキリスト者として如何に生きるかというのをそして、旗幟鮮明なる信仰姿勢に教えられた。また同師の教会には茶室を設けているとのことであった。右近から学ぼうとする想いの深さを感じた。続く公開講演では『内なる友ー賀川豊彦とスタンレー・ジョーンズ』との題目で、榎本恵さん(アシユラムセン

山本悦子さん



FRIENDS OF JESUS



木」と題して奨励し、ズームにて各地におられるアシユラムメンバーと、イエスの友メンバーとが祈りを一つにした。文明の利器を用いての集会であったが、互いに心つながり合うひと時であった。その後、北陸学院中高のスクールバスが配車され、北陸学院大学の副学長の中島賢介さんが案内してくださったが、ご配慮くださった同校に感謝すると共に、地元で色々と手配くださった岩城さんと榎本さんにも一同感謝し、快適に各地を訪れ

榎本恵さん

ター主幹牧師)が、講演された。スタンレー・ジョーンズはアシユラムの働きの創始者であり、戦前戦後のアメリカの宗教界の指導者の一人であったが、日米間の戦争を回避するために、

それからの政府からの密命を背景に交渉したことで、そして太平洋を挟んで徹夜祈

禱会をもったことなど、教科書では学べないような貴重な逸話を語ってくださった。2日の早

天集会では榎本さんが『流

れのほりに

植えられた

ることができた。最初に北陸中高を訪問し、山本悦子さん（同学院 ウィン館館長・史料編集室長）が「北陸のキリスト教のはじめ―奇跡が起こった」との題で講演してください。予定していた講師が体調不良となられその代役であったが、丁寧な資料を準備してください。トマス・ウインは妻のライザと共に1879（明治12）年に金沢に宣教するために訪れ、石川県中等師範学校の教師をしながら、金沢教会（現日本基督教団金沢教会）を設立した。彼は1883（明治16）年には男子校の愛真学校を開講し、卒業生には作家の泉鏡花などがいる。それだけではなく当時の女子教育の現状を憂えたウイン夫妻は女学校の設立も切望していたが、その夢はメリー・ヘッセル宣教師によって実現した。賀川豊彦の關係から見ると、賀川は二人の人物を特に尊敬していたという。メソジスト教会の創立者のジョン・ウエスレーと、賀川が神学校入学を目前としたときに結核にかかり、受け入れたのが金沢での牧会伝道の後、豊橋教会の牧師をしていた長尾巻牧師であった。当時結核は「死に至る病」と恐れられていたが、長尾家族の見守りの下、賀川は癒され、その後大いなる働きを成す者として用いられた。賀川は長尾のことを「日本にこのような伝道者が出たことを感謝する。私は彼は完全なる基督教芸術であると思っている。日本にもこのような奥ゆかしい聖徒が存在し得たかと思うと、私は嬉しくてたまらなくなる・・・」との言葉を遺している。その長尾がキリスト者となり、牧師となった切っ掛けは父の八内（後に（八之右衛門と改名）であった。彼は前田侯に仕え、高岡奉行を務めた人物でもあったが、安政5（1857）年に飢饉が起り、その結果米騒動となった。首謀者は死罪に処せられたが、八内は馬上で「火事はもう消えたから家を壊さなくともよい」と叫び回ったという。



金沢元町教会（長尾巻が初代牧師）

八内はその監督を命じられるのであったが、貧苦と屈辱の中にあってもなお天帝に對する信仰を失うことなく、互いに愛し支え合う姿に感銘したという。その八内に福音を伝えたのが、トマス・ウインであった。八内は「太陽が出たのに提灯に頼るべきでは

金沢カトリック教会



そして公判廷において八内は「高岡では米騒動はなかったが、火事はあった。町民は火事を消すために家を壊した。自分は馬上から火は消えたから、家を壊すなと制して歩いた」と証言し、高岡からは一人の罪人も出さなかったという。その後、八内は文久3（1858）年に金沢に帰り、腰町奉行となるが、明治時代に入ってもキリスト教禁令の政策は継承され、明治2（1869）年に政府は諸外国の抗議を退けて、浦上キリシタン3394人を逮捕した。その内526人が前田藩に預けられ外卯辰山に幽閉された。



長崎キリシタン殉教地卯辰山にて礼拝・賛美

う。巻は落ちた自分の髭をまとめて筆を作ったが、その筆を用いて武藤富男氏（元明治学院院長・キリスト新聞社初代社長）が書いた書が金沢教会に展示された。そこには「神の河に水みちたり」とあった。巻の生涯を表わす書に思えた。他に金沢カトリック教会や金沢元町教会を訪問、そして最後は、長崎キリシタン殉教の地となった卯辰山にて祈りの時を持ったが、「長崎キリシタン殉教の碑」にはこのような言葉が書かれてあった。「キリシタン弾圧で信仰を翻さなかった長崎の浦上村のキリシタンのうち、政府による明治二年（一九七三）の金沢藩預けの五百人余人は、明治六年（一八七三）に送還されるまで、卯辰山の菖蒲園と湯屋跡の牢舎に幽閉され病魔で命を落とした。昭和四十三年（一九六八）八



金沢城石川門（高山右近築造）

ない」と述べ、洗礼を受け、そしてその父を尊敬していた長尾巻は2か月後に洗礼を受けたとい

金沢駅前で路傍伝道



月十一日、カトリック金沢教会は、このことを後世に伝えた。主イエスは「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす」（ルカ19・40）」と語られたが、藪の中の小道を行く、人目に付かないような地に建てられた碑が今もなお、信仰の灯を消すことなく、叫び続けているように思えた。また能登でボランティア活動をしているグループや、岡崎市から駆け付けてくださった方々が賛美をささげ、交流の時をもつことができたこと、さらに金沢駅前で路傍伝道することもできたことも感謝であった。他にも

夏期聖修会を振り返って

日本基督教団羽咋教会員 岩城輝雄

今回の金沢市での夏期聖修会を心から感謝します。地元の藤本喜代枝さんと準備をさせてもらいましたが、プログラム

もっと報告し感謝しなければならいことがたくさんありますが、たくさん恵みをいただいた背後には多くの祈りと、奉仕者がいたことを感謝しつつ、主にも感謝、これからもイエスの友会を通して主の御業が顕れることを期待し、共に主の業に励みたいものです。



は何度も変更し皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

講師の梅染信夫先生がご病氣になられ、代役として山本悦子先生を紹介して下さいました。市内ツア

ールバスをお借りでき、ご案内は中島賢介先生が上手に熱心にして下さいました。暑い中、歩くのが大変なのでとても助かりました。北陸学院にはいろいろお世話になりました。

会場は大研修室をお借りしてあったので、ゆったりとした感じで公開講演に新しい方も来られてよかったと思います。食事も他の団体と離れた部屋でゆっくりでき良かったと思います。

準備は特に長谷川さんが励まして下さり、事務局の高島先生が立派な当日の「しおり」等作って下さり、会計の小野島先生に相談のつてもりました。

参加者に山縣先生の講演には茶道の方々も来てくださり、夜には能登のためにボランティアに來られた豊橋市在住のブラジル人の方々も参加して下さいました。

講演の題に一部変更がありましたので、改めて書きます。山縣先生「高山右近に息吹かれ」榎本先生「内なる友」賀川豊彦とスタンレー・ジョーンズ」、「流れのほとりに植えられた木」

山本先生「北陸学院のはじめ一奇跡は起こった」

説教、司会、奏楽、証し等とお祈り感謝します。一部の報告と感想を書かせてもらいました。これからのイエスの友会の歩みを覚えてお祈りいたします。ありがとうございました。

社会改造を展開した賀川豊彦

大野 剛



賀川豊彦には神に捉えられた神の人、神の側に立つ学者、社会改造をめざした事業家という3つの特徴がある。

3つの要件を同時に満たす人はなかなか見当たらない。彼は一人のキリスト者として、考えられるあらゆる方面を研究して総合的な議論を展開して検証しつつ実践した。それゆえ一般的な評価は毀誉褒貶相半ばし、各領域の専門職には十分理解できない人として敬遠された。

賀川は幼少期に両親と死別して真の人間愛を渴望していた。少年時代に有能な宣教師に出会い、彼の人格を通して教えられた聖書の御言葉はそのまま血となり肉となった。青年期には重度結核により危篤に陥るが、神秘体験によって癒された。パウロが目から鱗のようなものが落ちて視力を回復したように、賀川は痰壺に大量の血痰を吐き出して命を取り留めたのである。彼は結核病棟から退院したその年にスラムに飛び込み、劣悪な環境下で人々の世話と伝道と執筆に明け暮れた。数百人もの社会的弱者と生活を共にしながら、伝道に励んだ。その一方で毎年研究書や詩、小説の出版を続けたのである。彼を神の人と呼んでも過言ではないだろう。

賀川は神の人として、発想の原点は神にあった。神の立場から人を理解し社会

を改造しようとした。その処方箋としてたくさん著書が記された。大別すると信仰に関する研究書と解説書、社会問題に関する研究書と手引書がある。信仰に

関連する研究書には「基督伝論争史」、「聖書社会学の研究」、「神と贖罪愛への感激」、解説書「説教書」として「イエスの宗教とその心理」、「神による新生」、「キリストに就いての瞑想キリスト山上の垂訓」等がある。社会問題に関連する研究書として「貧民審理の研究」、「主観経済の原理」、「自由組合論」、「農村社会事業」、「友愛の政治経済学」等、解説書として「家庭と消費組合」、「協同組合の理論と実践」、「社会革命と精神革命」等がある。この他に代表的な哲学、文学作品として「苦難に対する態度」、「人格社会主義の本質」、「宇宙的目的」、「涙の二二分」、「死線を越えて」、「一粒の麦」等、合計すれば冊子を含めて300冊もの著作が出版された。

彼は上記神秘体験を「神に溶け行く心」と題して個人雑誌『雲の柱』創刊号巻頭言に掲載した。これを契機として全国の読者により紙上の教会が形成され、やがて「イエスの友会」が発足して、神の国運動および協同組合運動を推進する大きな力となった。彼は当初生活困難者を助ける救貧運動を始めたが、支援する仕組みの先が見えなかった。だが留学先のニューヨークで縫製工が自ら労働条件改善を訴えるデモ行進を目撃して、当事者の意識改革が鍵であることを発見した。そこで救貧運動から防貧運動へと戦略を切り替え、労働運動、農民運動を推進した。イエスの友会メンバーは組織的に神の国運動に関わり、全国にこの運動を展開した。これと並行して協同組合運動も実践された。

こうして日本の社会改造は徐々にだが着実に展開されたのである。

【二〇二四年度会計報告】 二〇二四年六月以降二〇二四年八月迄の状況

◎特別献金一名（伊藤地塩）

◎維持費（二万二千円）二名（小野島正彰、岩城輝雄）

◎会費（三千円）三名（小野島正彰、菅野直基、岩城輝雄）

◆会費納入と献金のお祝い◆

尊い献金と会費等でイエスの友会の活動をお支え下さり、イエス様にあつて感謝いたします。誠に折ですが、改めて会費等の納入をよろしくお願い致します。

▽たくさんの方から会費や献金をいただきました。感謝します。引き続き、各事業活動の費用のための会費や献金をお願いします。

会費、献金、維持費、購読料等の振込先は、次のとおりです。

▼郵便振替口座 「〇〇一七〇一七一九五八六」

加入者名 「イエスの友会本部」
いつもご支援を心から感謝申し上げます
（会計担当 小野島正彰）

「火の柱」 第740号

発行人 鈴木武仁

発行所 イエスの友会本部

発行日 2024年9月30日

本部事務局 441-8016 愛知県豊橋市弥生町西豊和4-7

高島史弘（イエスの友会 事務局長）

携帯 090-9994-9151 90メール

takahashi.m33@japan.email.ne.jp

郵便振込加金名 イエスの友会本部

口座番号 001707149586

火の柱編集 長谷川勝義

火の柱編集メール tripo586@j.comuf.jp

〒440-0026 愛知県豊橋市多米西町2-

2012 電話・FAX 0532-61

4822